

Briefing Transcription

|| 2026 年 1 月期通期決算説明会文字起こし ||

ミライアル株式会社

4238 東証スタンダード 化学

[企業情報はこちら >>>](#)

2026 年 4 月 15 日 (水)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 2026年1月期決算説明会を受けての FISCO アナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 決算説明	03
■ 質疑応答	18

■ 2026年1月期決算説明会を受けての FISCO アナリストコメント

- ・ 同社の優位性は、主力のプラスチック成形事業における半導体シリコンウェーハの輸送・保管用樹脂容器（FOSB* など）で世界トップクラスのシェアである。プラスチックの金型設計から精密成形、自動化装置開発までを同社単独で行う技術力と、国内外の主要ウェーハメーカーとの強固な取引基盤が大きな優位性となっている。課題はシリコンウェーハ搬送容器以外の第2、第3の収益の柱を育てること。

* FOSB（Front Opening Shipping Box）とは、300mm（12インチ）のシリコンウェーハを製造工場間や出荷時に安全に搬送・保管するためのプラスチック製密閉容器のこと

- ・ 2026年1月期連結決算は、売上高が前期比10.2%減の125.72億円、営業利益が同64.3%減の5.11億円、経常利益が同61.1%減の5.90億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同42.7%減の6.06億円となった。

- ・ 2027年1月期連結業績予想に関しては、同第1四半期のみ開示している。売上高が前年同期比21.7%増の37.80億円、営業利益が同75.6%増の1.90億円、経常利益が同69.5%増の2.00億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同25.8%増の1.30億円を見込む。

プラスチック成形事業の売上高は、緩やかな回復基調の継続を見込んでいる。成形機事業は、自動車業界の動向など一部不透明な状況は継続するものの、受注状況は緩やかに回復を見込む。利益面では営業利益および経常利益は、減価償却費の増加があるものの、稼働率上昇により前年同期に対し増益となる見込み。なお2027年1月期通期連結業績予想は現時点で合理的な業績予想の算定が困難であるとして会社予想を非開示としている。

- ・ 中期成長戦略の数値目標 ---2029年1月期のROE11.1%へ、株主還元を強化

中期成長戦略の最終年度の2028年度（2029年1月期）に、売上高239億円、営業利益47億円、営業利益率20.0%、ROE11.1%を目指す。2026年1月期から、新たに配当性向の指標を「総還元性向またはDOE」に見直し、株主還元を強化し、「総還元性向30%またはDOE2%」のいずれか高い方を下限とした安定配当とする方針である。これにより、PBR1倍を恒常的に達成し、中長期的な企業価値の最大化を目指す意向である。

- ・ 既に足掛かりを得ている分野を起点に成長への先行投資

2029年以降の第3創業期に向けて、中期成長戦略に沿ってシリコンウェーハ搬送容器以外の第2、第3の柱を構築するため、時代に必要とされ、新たな成長が見込める事業分野において、強いブランドバリューを持つ企業に対し、先行投資としてキャッシュを配分しM&Aを実行する。

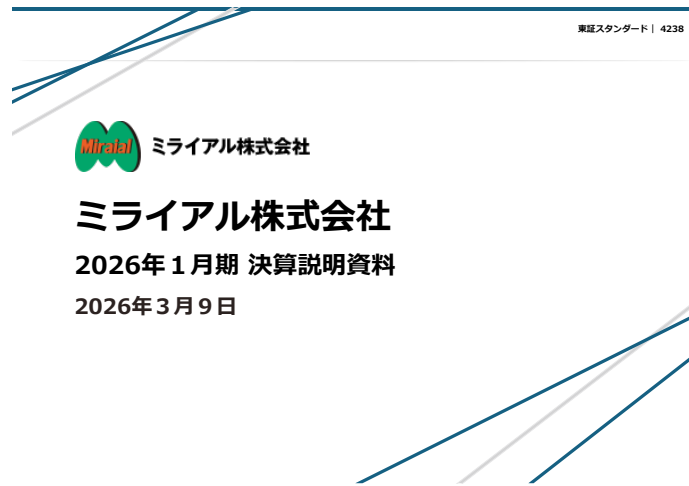
ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

■ 出演者

ミライアル株式会社
代表取締役社長

兵部 匡俊様


■ 決算説明



■ミライアル 兵部様

ミライアルの兵部でございます。株主・投資家の皆様におかれましては、日頃より多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。また、本日はお忙しい中、ミライアル株式会社 2026年1月期決算説明会をご視聴いただきまして、誠にありがとうございます。

昨日3月9日に開示いたしました決算説明資料に基づきまして、私からご説明申し上げます。

目次	 ミライアル株式会社
01	会社概要
02	事業内容
03	2026年1月期決算概要
04	2027年1月期第1四半期連結業績予想
05	中期成長戦略への取り組み
06	企業価値向上に向けた新たな取り組み
07	配当について

Copyright 2025 © MiraiAl Co., Ltd. All Rights Reserved 2

本日は、資料でございます7項目についてのご説明となります。どうぞよろしく願いたします。

ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

01- 会社概要



商号	ミライアル株式会社
資本金	11億1,100万円
代表者	兵部 匡俊
設立	1968年7月
所在地	〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-24-1 ニッセイ池袋ビル
連絡先	03-3986-3782 (代表)
従業員数	323名 ※2026年1月31日現在 (単体)
事業内容	高機能樹脂製品の開発および製造販売 金型の製造販売 その他事業

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 3

まずは会社概要でございます。当社は1968年の設立であり、間もなく2028年に設立60周年を迎えます。一昨年に公表いたしました「中期成長戦略」は、この60周年の節目をターゲットに据えたものとなっております。

02- 事業内容



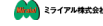
Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 4

続きまして、事業内容でございます。当社は、樹脂の成形加工、および成形機をはじめとした機械装置、金型の設計・製造などをコア技術として、「プラスチック成形事業」と「成形機事業」の2つの事業を展開しております。

「プラスチック成形事業」におきましては、主に半導体業界向けの樹脂製品を製造しております。「成形機事業」では、自動車をはじめとしたモビリティ分野、あるいはライフサイエンス分野などを中心とした幅広い業界に対し、プラスチック製品を作るための成形機と、それに付随する自動化装置、および金型を製造しております。それぞれの売上高規模につきましては、資料に記載の通りでございます。

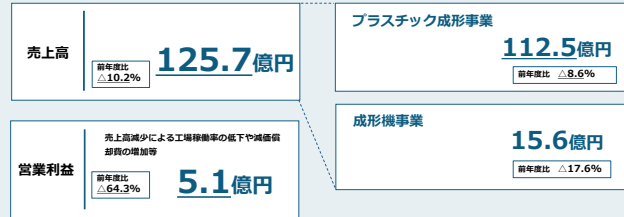
決算説明

03-2026年1月期決算概要



経営成績の概況

- 新たなステージでの長期ビジョンを実現する第3創業期に向けた土台作りの5年として、2028年度をターゲットとする5カ年の中期成長戦略2028を一昨年策定しました
- 半導体市場の成長と市場シェア拡大を見据え、安定供給できる体制を構築するため、生産能力増強や自動化等による効率化のための投資を進めています

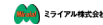


Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 5

次に、経営成績の概況でございます。当社は現在、新たなステージで長期ビジョンを実現するための「第3創業期」として、その土台作りを目標に掲げております。先ほど申し上げました、設立60周年となる2028年をターゲットとする「中期成長戦略2028」を推進中であり、現在はその3年目のスタートを切ったところでございます。

これまで当社は、半導体市場の成長と市場シェアの拡大を想定し、どのような状況下でも製品を安定供給できる体制を構築するため、生産能力の増強や自動化による効率化のための投資を進めてまいりました。

03-2026年1月期決算概要



損益計算書 (P/L)

(百万円)

	2025年1月期	2026年1月期				前期比率
	通期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
売上高	14,003	3,106	6,340	9,402	12,572	△10.2%
営業利益	1,434	108	334	465	511	△64.3%
経常利益	1,516	117	362	519	590	△61.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,058	103	283	397	606	△42.7%

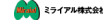
Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 6

損益計算書の概要をご説明いたします。前期（2025年1月期）との比較では、売上高、利益ともにマイナスとなる結果となりました。実績といたしましては、売上高は125億7,200万円、営業利益は5億1,100万円となっております。

ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

03-2026年1月期決算概要



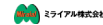
売上高・営業利益の四半期推移



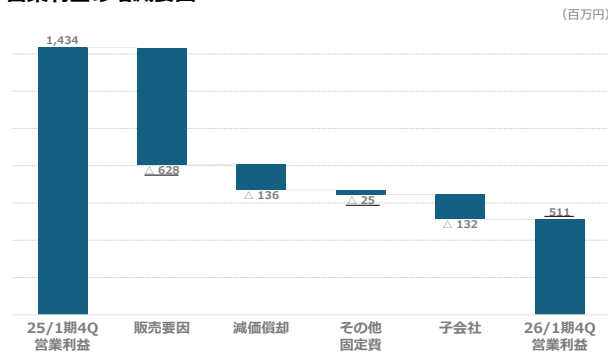
Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 7

連結での売上高と営業利益の推移でございます。1年を通じて、大きな下落はないものの、上昇も見られない「低位安定状態」が続きました。前期と比較いたしましても、非常に厳しい1年となりました。

03-2026年1月期決算概要



営業利益の増減要因



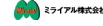
Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 8

営業利益の増減要因についてご説明いたします。減益の最大の要因は販売面の実績によるもので、売上全体が低調であったこと、およびセールスマックスの影響が挙げられます。また、こうした時期であるからこそ「次の波に備えた効率化投資を進めるべき」との方針のもと、積極的な設備投資を継続してまいりました。その結果、減価償却費の負担が増加し、営業利益を圧迫する形となりました。加えて、主に自動車業界の動きが鈍かったことから、子会社の業績が厳しいものとなったことも影響しております。

ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

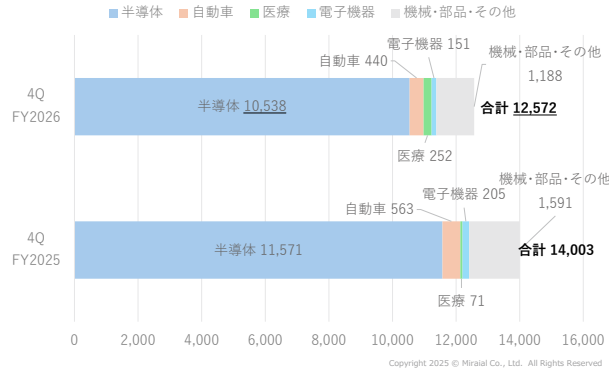
決算説明

03-2026年1月期決算概要



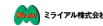
市場別売上高の内訳

(百万円)



続きまして、市場別売上高の内訳です。資料の上の帯が当期の実績でございます。前期と比較して全体的に市場が縮小（シュリンク）しておりますが、一部、医療関係の売上は若干増加いたしました。当社が半導体市場で培ってきた精密成形技術やクリーン環境下での成形技術、さらには特殊成形機の製造技術などを活かし、ライフサイエンス分野にも注力し、挑戦を続けております。現在はスポット案件が中心ですが、今後はこれらが安定的な収益源となるよう、取り組みを一層進めてまいりたいと考えております。

03-2026年1月期決算概要



セグメント別状況

プラスチック成形事業 ウェーハ在庫調整は底打ちしたとみられるものの、需要の回復はまだであり、全体として回復は緩やかなものとなりました

成形機事業 自動車業界の需要の失速等の影響を受け、受注状況が軟調に推移している一方で、部品に関しては安定供給される状況が維持されました

(百万円)

	2025年1月期 第4四半期累計期間		2026年1月期 第4四半期累計期間		前期比増減率	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)	売上高	率(%)
プラスチック成形事業	12,321	86.7	11,255	87.8	-1,066	-8.6
成形機事業	1,894	13.3	1,561	12.2	-334	-17.6
合計	14,215	100.0	12,817	100.0	-1,399	-9.8

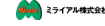
Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 10

セグメント別の全体感について申し上げます。プラスチック成形事業が関連する半導体シリコンウェーハ市場におきましては、ウェーハの在庫調整は底打ちしたと見られるものの、本格的な需要回復には至っておらず、レガシー品を含めた市場全体の回復は緩やかなものに留まりました。これに伴い、搬送容器の需要も十分な回復には至りませんでした。一方、成形機事業におきましては、メイン市場である自動車業界の需要失速の影響を受け、受注状況が軟調に推移いたしました。調達環境につきましては、価格の上昇は継続しているものの、供給自体は安定的な状況が維持されております。結果として、両事業ともに売上高は前期比でマイナスとなりました。

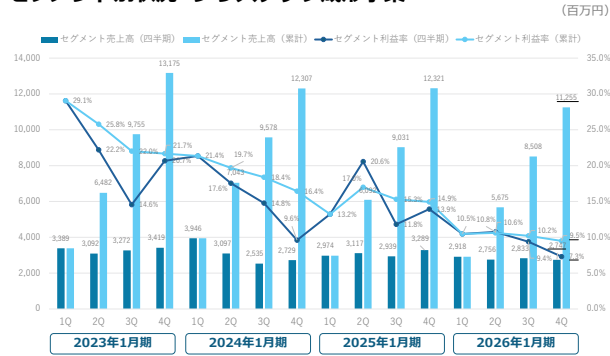
ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

03-2026年1月期決算概要



セグメント別状況 -プラスチック成形事業-



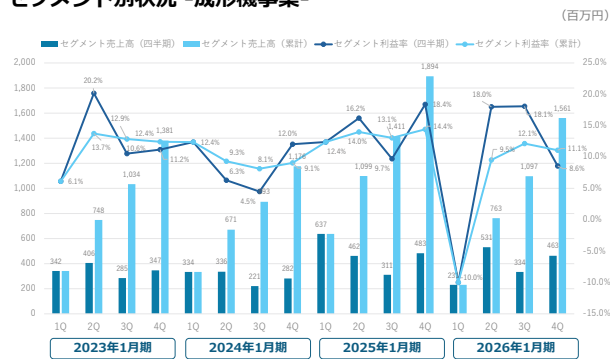
Copyright 2025 © Mirai Chemicals, Ltd. All Rights Reserved 11

プラスチック成形事業のセグメント損益です。半導体市場の踊り場状態が継続したことにより、停滞感が見られました。特に当期は「二番底」を経験したという印象を持っております。

03-2026年1月期決算概要



セグメント別状況 -成形機事業-



Copyright 2025 © Mirai Chemicals, Ltd. All Rights Reserved 12

続いて、成形機事業のセグメント損益です。当セグメントで製造する装置はオーダーメイドのものが多く、受注内容によって販売価格や利益率が大きく異なる性質がございます。そのため、グラフ上で顕著な傾向が現れにくいという特徴があります。しかし、数字上の傾向は見えにくくとも、自動車業界の低迷が成形機業界に与える影響は大きく、当事業においても当期は苦戦を強いられる結果となりました。

ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

03-2026年1月期決算概要



貸借対照表 (B/S)

(百万円)

資産の部	2025年1月期	2026年1月期	増減	負債・純資産の部	2025年1月期	2026年1月期	増減
流動資産	12,929	10,603	-2,325	流動負債	5,492	3,296	-2,195
現金及び預金	6,474	4,703	-1,771	仕入債務	2,540	1,528	-1,011
売上債権	3,646	3,069	-576	その他	2,951	1,767	-1,183
棚卸資産	2,354	2,475	120	固定負債	533	543	9
その他	454	356	-97	負債合計	6,026	3,839	-2,186
固定資産	15,592	16,225	632	株主資本	22,369	22,711	342
有形固定資産	15,063	15,560	497	内 利益剰余金	21,645	21,981	335
無形固定資産	35	66	31	その他の包括利益累計額	127	277	150
投資その他の資産	494	598	104	純資産合計	22,496	22,989	493
資産合計	28,522	26,829	-1,693	負債・純資産合計	28,522	26,829	-1,693
				自己資本比率	78.9%	85.7%	6.8pts

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 13

連結貸借対照表について申し上げます。機械装置を中心とした設備投資に伴い、現預金が減少した一方で、固定資産が増加いたしました。売上債権および仕入債務の減少が若干目立っておりますが、これらは通常取引の範囲内によるものです。流動負債のうち「その他」が減少しておりますが、これは主に設備関係の債務支払いに伴うものでございます。

03-2026年1月期決算概要



キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	2025年1月期	2026年1月期	前期比増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,336	1,074	△2,262
内 税金等調整前当期純利益	1,532	835	△696
内 減価償却費	1,296	1,434	137
内 仕入債務の増減額 (△は減少)	427	△1,011	△1,439
内 法人税等の支払額	△213	△517	△304
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,239	△2,559	679
財務活動によるキャッシュ・フロー	△386	△288	97
現金及び現金同等物の期首残高	6,759	6,474	△285
現金及び現金同等物の期末残高	6,474	4,703	△1,771

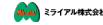
Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 14

連結キャッシュ・フローにつきましては、資料に記載の通りでございます。

ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

04-2027年1月期第1四半期連結業績予想



業績予想

- 売上高につきましては、プラスチック成形事業は、半導体市場において、先端品の需要が旺盛な一方で、既存品の需要回復には一定の時間を要しているなか、緩やかな回復基調が継続するものと見込まれます。成形機事業は、自動車業界の動向など一部不透明な状況は継続するものの、受注状況は緩やかに回復していくと見込まれます
- 営業利益および経常利益につきましては、減価償却費の増加があるものの、稼働率上昇により、前年同期期に対し増益となる見込みです

(百万円)

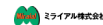
	2026年1月期 第1四半期 (実績)	2027年1月期 第1四半期 (予想)	対前期増減率 (%)
売上高	3,106	3,780	21.7
営業利益	108	190	75.6
経常利益	117	200	69.5
親会社株主に帰属 する当期純利益	103	130	25.8

Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 15

進行期第1四半期の業績予想についてです。総じて、両セグメントともに緩やかな回復基調にあると見ております。プラスチック成形事業では、半導体市場において先端品の需要が旺盛な一方で、既存品の需要回復には一定の時間を要しております。全体としては、緩やかな回復が継続するものと考えております。成形機事業については、自動車業界の動向に一部不透明感が残るものの、こちらも受注状況は緩やかに回復していく見通しでございます。

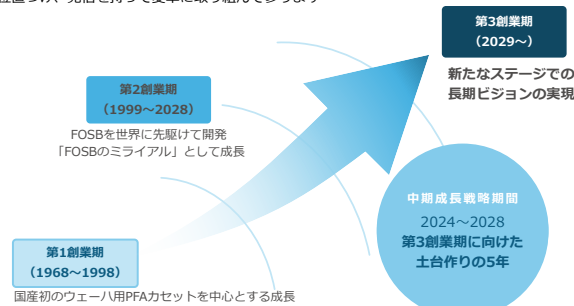
かかる状況下、稼働率の上昇が期待されることから、利益面におきましては前年同期比で増益を見込んでおります。

05-中期成長戦略への取り組み



当社の発展段階と中期成長戦略の位置づけ

中期成長戦略の期間は、新たなステージで長期ビジョンを実現するための土台作りの5年間と位置づけ、覚悟を持って変革に取り組んで参ります



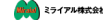
Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 16

改めて、ミライアルの発展段階と中期成長戦略の位置付けについて申し上げます。先ほど言及いたしました、2028年の設立60周年以降を「第3創業期」と位置づけております。そこに至るまでの直近5年間を中期成長戦略期間として設定いたしました。

すなわち、この5年間は第3創業期に向けた「土台作り」の期間でございます。グループ内のナレッジやリソース、そして企業カルチャーを整理・強化し、新たなステージにおける長期ビジョンの実現に向けて万全の準備を整えるフェーズであると考えております。

決算説明

05-中期成長戦略への取り組み

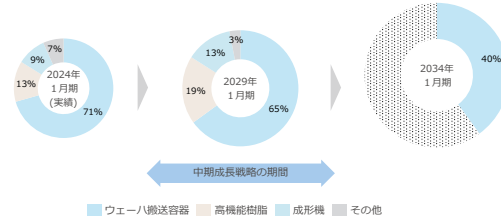


第3創業期に向けた事業ポートフォリオの変革

売上の7割をシリコンウェーハ搬送容器が占める事業ポートフォリオを変革し、2029年度以降の安定的な成長基盤を確立します

10年後に目指す事業ポートフォリオ(売上高)

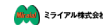
2033年度にシリコンウェーハ搬送容器以外の第2、第3の柱を構築します



Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 17

新たなステージに向けた重要施策の一つが、第3創業期を見据えた事業ポートフォリオの変革です。現在、売上高の大半をシリコンウェーハ搬送領域が占めております。この分野は今後も成長が期待される一方で、半導体市況の影響を受けやすいという側面もございます。そのため、現業をより強く、より深く追求する努力を徹底すると同時に、半導体業界以外の成長分野へも事業ポートフォリオを拡大してまいります。これにより、第2、第3の本業を構築し、2029年以降の安定的な成長基盤を築き上げていく所存です。

05-中期成長戦略への取り組み

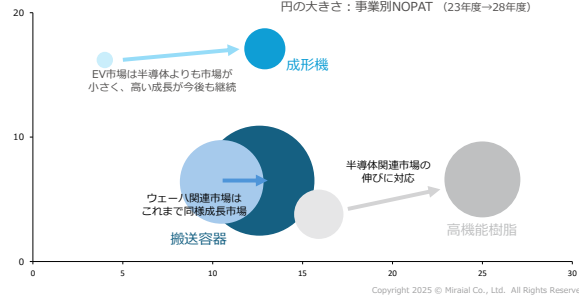


事業ポートフォリオに関する方針

現在の主力であるシリコンウェーハ搬送容器事業を深耕しつつ、成長市場での事業拡大が見込める高機能樹脂製品、成形機の事業に経営資源を振り向けます

事業セグメント別の24年1月期見込と29年1月期目標

縦軸：市場成長率 [%] (前成長戦略期間→当成長戦略期間)
横軸：事業別ROIC [%] (23年度→28年度)
円の大きさ：事業別NOPAT (23年度→28年度)



Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 18

具体的には、主力であるシリコンウェーハ搬送容器ビジネスを深掘りしつつ、成長市場での拡大が見込める高機能樹脂製品ビジネス、あるいは成形品・成形機ビジネスへと経営資源を重点的に投入してまいります。これまでミライアルグループが得意としてきたフィールドを改めて見つめ直し、新たな収益源を見出していくことに注力することが、成長の基本であると認識しております。

一方で、成長スピードを加速させるためには、自社リソースのみに頼らない「インオーガニックな成長」も目指していかねばならないと考えております。そのために、ミライアルグループがこれまで培ってきた技術、生産体制、品質管理、そして企業文化といったナレッジを改めて棚卸いたします。これらの強みを活かしてシナジーを創出できる新分野への進出についても、同時に検討を進めてまいります。

決算説明

事業を拡大していくにあたりましては、企業価値向上という目的を念頭に、事業性を評価し、継続的に事業ポートフォリオを見直していく仕組みが必要になるということは承知しております。しかしながら、我々といたしましては、そうした仕組みが必要となるようなポートフォリオを構築することが、まず大前提として必要になります。そのため、まずは事業ポートフォリオの拡大に、慎重かつ積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

05-中期成長戦略への取り組み



中期成長戦略の数値目標

- 中期成長戦略の最終年度の2028年度（2029年1月期）に、売上高239億円、ROE11%を目指します
- 今年度（2026年1月期）から、新たに配当性向の指標を「総還元性向またはDOE」に見直し、株主還元を強化します

	2024年1月期実績	2029年1月期計画
売上高	132 億円	239 億円
営業利益	15 億円	47 億円
営業利益率	11.5 %	20.0 %
ROE	4.8 %	11.1 %
配当性向	「配当性向30%」を目標とする安定配当	
総還元性向 DOE	「総還元性向30%またはDOE 2%」 のいずれか高い方を下限とした安定配当	

今年度の修正

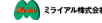
Copyright 2025 © Mirai Al. Co., Ltd. All Rights Reserved 19

中期成長戦略の最終年度である2028年度（2029年1月期）における数値目標は、資料の通りでございます。これは一昨年、中期成長戦略を策定した当初から変更しておりません。数値的にはチャレンジングなものとなっておりますが、残りの期間は約3年でございます。ここでは目標を変えることなく、実現するための方法を考え、実行することに集中してまいりたいと存じます。

一点、配当につきましては、資料にございます通り、既に方針を変更しております。当初は配当性向30%を目標とする安定配当を目標として掲げておりましたが、昨年12月の第3四半期決算発表の際に、これを変更いたしました。具体的には、総還元性向30%、またはDOE（自己資本配当率）2%、これらのいずれか高い方を下限とした安定配当を行うという内容でございます。

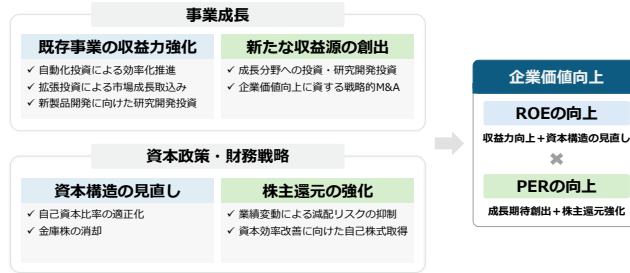
決算説明

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



企業価値向上に向けた新たな取り組み

今年度(2026年1月期)から企業価値向上に向けた新たな取り組みとして、更なる収益力強化による事業成長と市場からの要請に沿った資本政策・財務戦略の両輪を通じて、ROEとPERの向上を促進し、PBR 1倍超を恒常的に達成するとともに、中長期的な企業価値の最大化を目指します



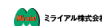
Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 20

企業価値の向上は、当社にとって重要な課題であることから、進行期からさらに取り組みを強化してまいりたいと考えております。基本的には、事業成長と資本政策、および財務戦略、これらのバランスを取りながら両輪で改善を図ります。ROE(自己資本利益率)とPER(株価収益率)の向上を目指すことで企業価値を向上させ、結果としてのPBR(株価純資産倍率)1倍超を目指してまいります。

事業成長に関しましては、既存の半導体関連製品および成形関連製品の進化を図るとともに、研究開発やM&Aにも力を入れ、新たな収益源の創出に注力してまいります。一方、資本政策および財務戦略につきましては、資本構造の見直しと株主還元の強化に努めてまいります。

何よりもまず大切であるのは、事業戦略と事業成長であると考えております。主力の搬送容器製品につきましては、ご承知の通り短期的には波がございますが、中長期的には成長が見込まれる分野でございます。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



事業成長に向けた取組みの重点

- 搬送容器事業** | 半導体市場の活況を念頭に、来るべきウエーハ出荷量の伸長時の増産体制整備
- 高機能樹脂事業** | 機能統合した東北新工場への生産移管・生産量拡大、新市場開拓
- 成形機事業** | ミライアル向けブロー成形機の稼働実現、EV向け成形機の開発・拡販

	更なる収益力強化に向けた課題認識	重点取組み方針	
搬送容器事業	● [FOSB / FOUN] ... 熊本事業所の生産ラインの自動化による収益率の向上	● 市況が転じた場合に増産可能な体制整備・生産量の拡大	既存強化
	● [FOUN] ... クリーン化技術、大型~小型成形ラインアップを活かした受注獲得	● 半導体業界の「後工程」領域に向けた付加価値製品の開発	新収益源
高機能樹脂事業	● 熊本・山口・東北3事業所の生産機能を東北に統合、統合した新工場の稼働率向上に向けた、高機能製品の生産移管および生産量の確保	● 更なる高機能製品の生産移管	既存強化
		● 新市場開拓 (M&Aを含む新製品開発・研究開発)	新収益源
成形機事業	● ミライアル向けに開発した新分野成形機稼働実現	● EV向け成形機の継続的な開発・拡販	新収益源
	● EV向け封止用トランスファー成形機等の開発推進		

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 21

同時に、品質レベルやコストにつきましては、これまで以上に競争力が試されることになると認識しております。これに対応するため、増産投資および自動化投資を早急に完結させるとともに、研究開発にも力を注ぎ、高まる顧客ニーズに対して多様な切り口で応えられる製品を追求してまいります。

決算説明

また、半導体業界に代表されるハイエンド市場の中には、当社のコア技術である「樹脂の成形加工」を展開できる分野が、まだまだ数多く存在すると確信しております。当社の高機能樹脂製品を半導体業界のみならず、その他の成長分野にも展開することで、これまで以上に高機能樹脂製品の売上高比率を引き上げていきたいと考えております。そのための新市場開拓活動や、生産ラインの再構築にも注力してまいります。

最後に、成形機事業についてですが、ニッチ市場ながらも着実なニーズが存在するトランスファー成形機をはじめ、特色ある成形機と金型をワンストップで提案できるという当社の強みがございます。これらを生かし、自動車業界やライフサイエンス業界等へのさらなる深耕に努めてまいります。

特に昨今は、省人化ニーズが非常に高まっており、成形機単体ではなく自動化システムとセットでの提案を求められる機会が多くなっています。成形機のみならず、自動化の分野やAIの分野などにも視野を広げ、次世代の成形システムの提案にも挑戦してまいりたいと考えております。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



資本政策・財務戦略

資本コストの削減と資本効率の向上を実現するために資本政策・財務戦略の方針を見直します

	~2025年1月期	2026年1月期~	見直しの狙い
資本 構成 の見 直し	✓ 資本構成 借入を行わず、高い自己資本比率を維持	有利子負債を活用し、財務レバレッジを効かせた最適な資本構成への転換を図る	<ul style="list-style-type: none"> 資本コストの削減 財務レバレッジの活用 ROEの向上
	✓ 在庫株 積極的な消却は未実施	役員報酬等の必要株数以外の株式は消却する	<ul style="list-style-type: none"> 株式希薄化リスクの排除 EPS、BPSの向上
株 主 還 元 の 強 化	✓ 配当方針 配当性向30%を目安とした安定配当	単年度利益に対する配当性向の安定化ではなく、 配当額の安定化と強化 を図る	<ul style="list-style-type: none"> 半導体市場のボラティリティに左右されない配当安定化
	✓ 自己株式取得 役員報酬のための取得のみ	中期成長戦略期間中に 発行済み株式総数の3%程度を目安とした継続的な自己株式取得 を実施する	<ul style="list-style-type: none"> 資本効率性の向上 株主への還元強化

資本コスト削減・資本効率向上による最適な資本構成の達成を実現

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 22

資本政策および財務戦略の見直しについて申し上げます。具体的には、有利子負債の活用、配当額の安定化、自己株式の取得、および株式の消却等に関するものでございます。事業成長に向けた取り組みを推進しつつ、掲げている各項目を効果的なタイミングで適切に実行することにより、資本コストの低減と資本効率の向上を目指してまいります。

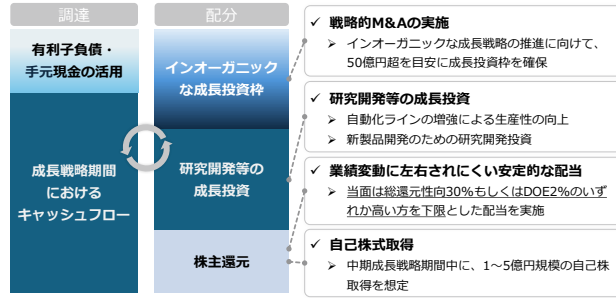
決算説明

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



キャッシュアロケーション

事業成長によるキャッシュ創出力を高め、積極的な配当や自己株式取得等の株主への還元と、更なる事業成長に向けた成長投資やM&Aに配分します



Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 23

キャッシュアロケーションにつきましては、まずは事業成長を促進することで、キャッシュ創出力を強化していくことが大前提となります。そのため、先ほど申し上げた事業成長強化のための施策に注力してまいります。これにより創出したキャッシュにつきましては、インオーガニック成長も含めた開発投資やM&A投資に活用すると同時に、積極的な安定配当や自己株式取得といった株主還元にも対応してまいりたいと考えております。また、資金の調達源泉に関しまして、これまで当社は有利子負債を活用する機会が多くありませんでした。しかし、今後、最適な資本構成を実現するにあたっては、借入金の活用も当然ながら視野に入ってくるものと理解しております。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



既に足掛かりを得ている分野を起点に成長への先行投資

2029年以降の第3創業期に向けて、中期成長戦略に沿ってシリコンウエーハ搬送容器以外の第2、第3の柱を構築するため、時代に必要とされ、新たな成長が見込める事業分野において、強いブランドバリューを持つ企業に対し、先行投資としてキャッシュを配分しM&Aを実行します

【先行投資の狙い】

- ① 成長分野での超過利潤獲得を通じてリスク分散を図ることにより、半導体市場に大きく依存する事業構造の景気サイクルへの耐性を強化し、ミライアルグループを持続的な成長軌道へ乗せます
- ② ハンズオンでのガバナンスを通じて、投資のモニタリングを強化し、投資先の企業価値向上を実現するとともに、更なる事業成長に向けたキャッシュアロケーションとバランスシートマネジメントを行いながら、自律的に最適な資本構成を実現し、資本コストを削減することで、ROEとPERの向上を目指します

【M&Aの対象候補として想定する事業分野】

- ◆ 半導体事業
- ◆ 社会インフラ事業
- ◆ ライフサイエンス事業
- ◆ 産業機器事業

24

Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved

先ほど事業ポートフォリオ変革の際にも言及いたしました、2029年以降の「第3創業期」に向けた準備として、現業以外の第2、第3の本業構築に注力してまいります。具体的には、自社リソースを活用した研究開発に力を入れることはもちろん、新たな成長が見込まれる事業分野において、強いブランドバリューを持つ企業に対し、先行投資としてキャッシュを配分し、M&Aを実行してまいります。

決算説明

当社として M&A の対象候補に想定している事業分野といたしましては、現時点では、例えば半導体分野、社会インフラ分野、ライフサイエンス分野、産業機器分野などがあると考えております。

時代に必要とされ、かつミライアルグループのリソースとのシナジーが想定される企業とともに、持続的成長を目指してまいりたいと考えております。当社が実行する M&A においては、これまでと同様に投資先の経営に入り込み、理念を共有した上で、ワンチームとしてグループ一体経営を目指してまいります。

これにより、グループ各社の企業価値向上を実現するとともに、グループ全体の視点といたしましては、事業成長に向けたキャッシュアロケーションとバランスシートマネジメントを行いながら、自律的に最適資本構成を実現し、資本コストを低減することで ROE（自己資本利益率）と PER（株価収益率）の向上を目指してまいります。

当然ながら、先ほど申し上げました通り、この段階になりますと事業ポートフォリオの見直しの仕組み化が必要になると考えております。企業価値向上に資する事業ポートフォリオを維持していくための体制や仕組みにつきましては、この段階から構築していくことになると承知しております。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



企業価値向上に向けた取り組みを実現するための新経営体制

持続的な成長と中長期的な企業価値の最大化に向け、経営機能と執行機能の双方を強化し、経営資源の適切な配分を通じた成長投資の促進を実行します

【取締役】

【執行役員】

氏名	新役職	氏名	新役職
兵部 匡俊	代表取締役社長	兵部 匡俊	社長執行役員 CEO
羽山 哲生	取締役	野口 高史	常務執行役員 CTO 技術本部長
後藤 愛	取締役 (社外)	羽山 哲生	執行役員 CFO 経営企画・管理本部長
野間 幹晴	取締役 (社外)	須田 隆英	執行役員 CMO 高機能樹脂製品事業本部長
松永 夏也	取締役 常勤監査等委員 (社外)	三保 鉄平	執行役員 容器製品事業本部長
木部 永二	取締役 常勤監査等委員	曹田 謙一	執行役員 生産本部長
渡邊 寛	取締役 監査等委員 (社外)		

- ※ 1 2025年4月より、組織を機能別の本部組織に整理することにより、各組織の役割と責任を明確にすること、経営機能と執行機能の双方を強化することを目的として、本部制を導入。2026年4月以降は、市場に合わせ製品群ごとに組織を見直し、本部の新設および統合を実施
- ※ 2 2026年4月よりCxO制を導入し、専門性の強化、迅速な意思決定、競争力の向上、コーポレートガバナンスの強化、中長期的には企業価値の最大化を実現
- ※ 3 2026年4月23日に開催予定の第58回定時株主総会ならびに定時株主総会終了後の取締役会にて正式に決定される予定

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 25

続きまして、企業価値向上に向けた取り組みを実現するための新経営体制をご紹介します。正式には、本年4月に開催予定の当社株主総会および取締役会での決定となりますが、持続的な成長と中長期的な企業価値最大化に向け、経営機能と執行機能の双方を強化した新たな体制をスタートさせていきたいと考えております。

大きな変更点といたしましては、新たにCxO制を導入いたします。専門性の強化、意思決定の迅速化、競争力の向上、そしてコーポレートガバナンスの強化等を通じて、企業価値の最大化を目指してまいります。また、組織につきましても、ここには記載していませんが、機能別の本部制に変更いたします。これにより、各本部の役割と責任を明確にし、スピード感を持った経営を目指してまいりたいと考えております。

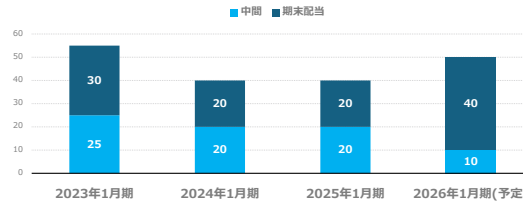
決算説明

07-配当について



配当金の推移

- DOE基準を導入し、半導体市況のボラティリティに左右されない配当額の安定化を図ります
- 26年1月期は年間で50円の配当を予定します（配当性向74.5%、DOE2.0%に相当）



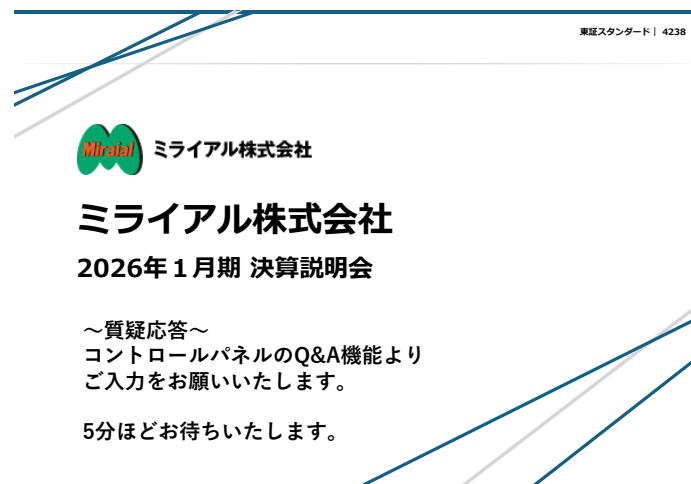
配当性向	31.5%	35.2%	34.1%	74.5%
------	-------	-------	-------	-------

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 26

最後に、配当金についてでございます。詳細は資料に記載の通りです。先ほどご説明した通り、当期の当初予定より方針を変更しております。

私からのご説明は以上でございます。少々長くなり、また早口となりましたことをお詫び申し上げます。ご清聴、誠にありがとうございました。

■ 質疑応答



★質問

2026年1月期に関しまして、プラスチック成形事業における「シリコンウェーハ出荷容器」と「工程内（工程用）容器」の数量および単価の動向、ならびにリユース比率の推移について、差し支えない範囲でご説明いただけますでしょうか。併せて、前第4四半期（3か月間）の動きと、今後の見通しについても回答をお願いいたします。

★質問

2027年1月期 第1四半期の計画に関して、セグメント別の売上高および営業利益の見通しをご教示いただけますでしょうか。

★質問

2027年1月期 第1四半期における減価償却費の前提について教えてください。また、通期での設備投資額、減価償却費、および研究開発費の見通しについても併せてご教示願います。それでは、以上3点につきまして、ご回答をお願いいたします。

■ミライアル 兵部

いずれにつきましても、開示していない事項が含まれますため、十分な回答とならない部分もあるかと存じますが、ご容赦いただければ幸いです。

ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

質疑応答

まず、シリコンウェーハ出荷容器および工程内容器の数量、単価、リユース比率の動向についてですが、これらはいずれも数値を公表しておりませんため、詳細なお答えは差し控させていただきます。ただし、単価およびリユース比率に関しましては、現在大きな変動はないものと認識しております。直近において特筆すべき大きな動きはございません。数量につきましては、売上高が減少していることからご推察の通り、前年同期比（YoY）で見れば全体的に低下しております。一方で、四半期ベース（QoQ）の推移としては、FOSB（出荷容器）は依然として厳しい状況が続いておりますが、FOUP（工程内搬送容器）や工程内容器、および高機能樹脂製品については、装置メーカー様の動きが回復しつつあるという一般的な観測もあり、当社としても少しずつ回復の兆しを感じているところでございます。

次に、2027年1月期第1四半期のセグメント別見通しですが、第1四半期の業績予想（ガイダンス）自体は公表しておりますものの、セグメント別の詳細な内訳については開示しておりません。何卒ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

3点目の減価償却費等の前提について回答いたします。第1四半期の減価償却費は、前年同期と比較して若干増加する見通しですが、具体的な金額については開示しておりません。また、通期の設備投資額、減価償却費、および研究開発費の見通しにつきましても、現段階では公表を控えております。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

以上、3点のご質問に対する回答とさせていただきます。ありがとうございました。

★質問

今後の見通しについて、事業環境の「外部要因」と御社の「内部要因」に分けて、いつ頃から本格的な回復局面に入ると想定されているか、詳しくお聞かせください。また、金利上昇局面において、現在の資本コスト（株主資本コスト）はどの程度とお考えでしょうか。

■ミライアル 兵部

まず内部要因、すなわち当社の準備状況に関しましては、先ほどご説明申し上げた通り、増産体制の構築や自動化に向けた設備投資はある程度完了しております。内部的な受け入れ態勢は、すでに整いつつあると認識しております。

今後の業績については外部の景気動向に左右されることとなりますが、足元では先ほど申し上げた通り、緩やかな回復基調にあります。装置メーカー様やデバイスメーカー様の投資も比較的動き始めていると承知しており、これらが本格的に稼働してくれば、数字としても明確な形になってくるのではないかと考えております。時期を断定することは難しいものの、このまま緩やかな回復が継続し、本年の後半頃にはある程度、業績として顕在化してくるのではないかとという見立てを持っております。

続いて、資本コストに関するご質問にお答えいたします。金利上昇に伴う資本コストの上昇懸念を含めたご質問かと存じます。一昨年に中期成長戦略を公表した際には、CAPM（資本資産価格モデル）を用いて算定し、当社の資本コストを9.0%～9.5%程度と開示いたしました。

その後、数値をアップデートした開示は行っておりませんが、ご指摘の通り、現在の経済局面においては当時よりも上昇しているものと考えております。改めて社内で適切に検証を行い、必要に応じて適切なタイミングで開示できるよう準備を進めてまいりたいと考えております。

質疑応答

★質問

2028年(2029年1月期)を最終年度とする中期成長戦略の数値目標について伺います。売上高239億円の達成に向けた成長シナリオとして、「既存事業の収益強化」と「新たな収益源の創出」のそれぞれの寄与度について、概算で結構ですので現時点でのイメージをご教示ください。

■ミライアル 兵部

非常に重要な、かつ現時点では判断の難しいご質問でございます。

現時点での考え方といたしましては、既存ビジネスの成長によって積み上げられる部分を確認し、目標との間に生じる差分については、新規事業によって埋め合わせをしていくという構成になると考えております。

既存ビジネスを今後どこまで伸ばせるかという詳細な点については、現在まさに検証を進めている途上であり、明確な内訳数値を申し上げることは現段階では困難です。しかしながら、今後3年間のなかでFOSB、FOUPともに市場は伸びていくと見ております。また、高機能樹脂製品に関しましても、半導体業界のみならず他分野への展開を強化してまいります。まずはこれら3つの主要製品群において、最大限の成長を追求してまいります。

その上で、目標達成に不足する部分については、M&Aや研究開発を通じた新規事業開発によって補完してまいります。現在の市況に鑑みても中期経営計画の目標数値を変更していないことは、私たちの意志の表れでもあります。目標達成に向けて着実に歩みを進めていくとともに、現時点では決して到達不可能な数字ではないと認識しております。

直接的な内訳の回答とならず恐縮ではございますが、現時点での当社の考えとしてご理解賜れば幸いです。ありがとうございます。

★質問

今後の成長ドライバーとなる「高機能樹脂製品」について、市場環境や貴社の競争優位性をどのように捉えておられるかご教示ください。

■ミライアル 兵部

まず大前提として、当社がすでに深い知見を持つ既存マーケットをさらに深掘りし、強化していくことが重要だと考えております。半導体業界において、これまでにない新たな製品を創出していくことが第一のステップです。当社の競争優位性についてですが、私たちは60年前の創業当時から「フッ素樹脂」の成形加工に携わってまいりました。ご承知の通り、フッ素樹脂は半導体製造プロセスにおいて不可欠な素材であり、非常に多くの競合他社が存在する分野でもあります。しかし、当社は創業時から積み上げてきた独自の技術ノウハウを持っており、この分野には非常に高い親和性と強みを有しております。これらをさらに強化し、高度化する市場ニーズに応えていく方針です。

具体的な優位性の一例を挙げますと、射出成形技術がございます。一般的な樹脂成形は多くの企業が手掛けておりますが、非常に大型の製品を射出成形で製造するには、極めて高度な技術が必要となります。当社は世界最大級の製品を製造できる大型成形機と、それを操る技術を保有しており、フッ素樹脂の成形品に関しては、世界でも類を見ない規模の製品を製造できる体制を整えております。

ミライアル株式会社 | 2026年4月15日(水)
4238 東証スタンダード 化学

質疑応答

競合の多い分野ではございますが、当社は単なる価格競争に挑むのではなく、「ミライアルにしかできない」大型射出成形品や、他社には真似できない特殊な領域に特化してまいります。付加価値の高い製品をご提供することで、収益と利益を共に高めていくビジネスモデルを構築していきたいと考えております。以上、ご回答申し上げます。

●司会

ご質問いただき、誠にありがとうございました。

それでは、定刻となりましたので、以上をもちましてミライアル株式会社 2026年1月期決算説明会を終了させていただきます。

本日はご多忙の中、最後までご視聴いただきまして誠にありがとうございました。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp